



第 15 号

昭和61年 3 月 1 日
静岡県三島市文教町 2
日大三島高校同窓会 発行

御挨拶

会長 高 田 菊 平



会員の皆様方におかれましては、お変わりなくそれぞれ御活躍のこととお慶び申し上げます。同窓会も皆様方の御支援によりまして年々着実な歩みをつづけていかれますこと、大変ありがたく厚く御礼申し上げます。

さて、最近の経済の状況は、大変厳しさを増してきていると思います。とりわけ昨年の九月下旬から始まりました急激な円高シフトの影響は、それ以来それぞれの分野において早急な対応をせまられ

るものとなってきております。そして日々の仕事の中でそれらが大きくかわりあいを持ち、我々の身近なものとして、肌身を感じるようになりました。このような大変厳しい環境の中でも、我々同窓会々員の皆様方の御活躍を耳にするたびに「あ、彼も頑張っているのだなあ」と思い、我が身をふりいたさせるものであります。世の中がますます複雑になり、そして変化の激しい社会となって来れば来るほど、我々にとつて心のよりどころが必要になります。皆それぞれに、周囲をとりかこむ世界があり、その中がなじがらめになつて生きていかななくてはならない、又その中で常に自分の生きる道をつづけていかななくてはならない。そのような状況のなかで、お互いの境遇を理解しあえる

仲間、はげましあえる仲間として同窓生であるということは、どれだけ力強いものであるかわかりません。

故玉津徳太郎先生が常に申されていました仲間集団という考え方は、今の時世には決して欠かすことのできないことだと思います。私が同窓会活動をつづけることの意義も、そういうところにあると感じているからであります。

皆様方はどう考えておられるのでしょうか。どうか仲間をふやし、その和をもっともつとひろげていこうではありませんか。会合には仲間をたくさんつれて集まってくれることを今後とも期待しております。

最後に皆様方の御健勝と、会に對するかわらぬ御支援と御活躍を期待し、御挨拶いたします。

高田菊平氏の紹介

氏は、母校の第一期生であり

氏の心あたかな人柄と、エネルギーな活動力は、常に同窓会員の人望を集め、名実ともに同窓会の中心です。

昭和五十三年の四月より、第三代目の同窓会々長として、その任についています。また、五十九年からは、日本大学三島学園

現在、ニューデルタ工業株式会社（三島市梅名）社長。天城湯ヶ島町出身。趣味は、テニス・ゴルフ・山登り・旅など。

体育奨励会々長をもつとめています。気軽に話せる先輩、頼りにする先輩。



桜陵祭風景

御挨拶

校長 北岡 功



三十にして立つ、とか申しますが、本校の開設三十周年もあと二年後に控え、その個性ある自立の軽重を問われる時が参ったようでございます。いうまでもなく、これを期して些かなりとも記念行事をと昨年よりその準備に取りかかっている所でございますが、ご周知の通り、臨教審を通しての国を挙げての教育百年の見直しと平行して、私どもも学校運営の見直しはもとより、施設・設備の新・改築など新しい世代に呼応した教育環境の実現をと鳩首（こもこも）も大学当局に上申している所でございます。

この三十周年を機に、日頃の私どもの合言葉「東部私学の雄たる矜持にあぐらをかくことなきよう」、更に膽を固めて参ることに変わります。ませんが、昨今目にみえて、本校を目標に追いつけ、追いつけの近在の公・私立校の四面攻勢を肌で感じるとき、臨教審の答申を相保つことはもとよりのことですが、それにさきがけ、入学者選抜のあり方にしろ、六十四年をピークにして展開される急減対策にしろ、それこそ喫緊の問題として今から小委員会に分かれ、多角的に取り組んでいる所でございます。多角の字が示す通り、同窓会の皆さまからもより示唆多き意見を徴して参る所存でございますので、従来に倍するご支援をここに更めてお願いする次第でございます。そのためには総会はもとより、各地域の支部会にも極力出席させて頂き、貴重な進言・忠告を賜りたく、更に欲を申しあげれば、それらに関わる地域の有識者ないしはご子弟などをもご紹介頂ければ幸甚これに尽きると存じます。

法の中に衣食あり、とか申しますが、同窓生相互の心の絆、ひいては私ども母校と皆さまとの暖かい交流の中にのみ、共に衣食足る繁栄と幸福があることを固く信じ、ときには私利を忘れ、私暇をさいて同窓会大同の路線に参同、もってゆるぎなき母校の伝統保持にお力添え頂きますよう重ねてお願い申し上げる次第でございます。



副会長挨拶

二十一世紀に向かって



奈良橋 慶行（四期）

な事を処理してくれるからです。

今までは個人の頭脳・能力が高く評価され、個人が非常に尊重されてきました。しかし、二十一世紀の社会は違うと思います。一人でやっていける社会ではなく、多くの人々と協力していかなくては何もできなくなります。いいかえれば、結びつき、つまり、結束だろうと思います。そこに同じ学窓を巣立った我々の結束が役に立つはず。だからこそ、同窓会の大切さ、必要性があるような気がします。二十六期生の皆さま、お互に交流をしましょう。親交を深めましょう。そして、この二十一世紀に生きるためにも、もっともつとこの同窓会の輪を広げていくではありませんか。この結束でぶつかったならば、どんな時代にも生きぬくことができるはず。これからは本校同窓生として強く結びついていくではありませんか。

紹介

昭和三十九年卒業。第四期生。在学中は電気部員として活躍。初代生徒会長をつとめる。現在、株式会社東陽社常務取締役として電気工事業界で活躍。

新入会員を迎える

歓迎の言葉

同窓会は強い味方

石橋 勝好 (四期)



卒業おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。早いもので本校も二十六期生を世に送り出す事になります。一方我々同窓会もこれを迎え約二万八千余名の大所帯になります。本当に嬉しいかぎりです。この同窓生の中には技術屋、事業家、等あらゆる方面でエネルギーに活躍しておられます。なんと素晴らしい事ではないでしょうか。

今年の正月に工業科電気(今は廃止ではありません)の同窓生が七、八名やって来ました。ともに企業に勤めて二、三年やと企業にも慣れ少ずつ自分達の力を発揮しだした若者達です。酒を酌み交わしながら最初は高校時代の思い

出話、ところが酒量が増えてくる。と話は仕事話になっておりました。ある者は電子材料の話、ある者はコンピューターの話に夢中になっていました。僕も久しぶりに電気の話で眉を細めて聞いていました。でも話題が高度で話に入ってゆけなかったのが本音でした。でもここまで成長した同窓生を見てとても嬉しく思いました。こんな冬の夜を酒を飲みながら同窓生と話し、地域社会にこんなにも彼達が貢献しているのだなと思ひ、本校同窓生の頼もしさと底知れぬ大きな力を感じずにはいられません。でした。

卒業生諸君、君達がこれから活躍する社会にはこんなにも力強い味方がいることを忘れずに活躍すると同時に、これから出る同窓生にも力強い味方となってくれることを期待します。そして一層本校同窓会を発展させていきましよう。

新入会員の言葉

校訓を背負って

二十一世紀へ



藤澤 紳司 (二十六期)

私達昭和六十年卒業生は、本校での三年間の高校生活を無事に終えることができ、第二十六期生として、同窓会に入会させて頂くことになりました。

厳しい寒さの中にも、春の訪れが感じられるこのごろ、卒業という一つの分岐点を迎え、進学・就職と、それぞれ私達の新しいスタートラインは違いますが、しかし、こ

れからの長い社会生活の中で、幾多のことを経験し、また数多くの人と出会って行くと思います。しかも、あらゆる方面において、御活躍されておられる、本校二万七千余名の諸先輩方との交流も、今まで以上に多くなることでしょう。その折には、暖くも厳しい御指導のほど、よろしくお願い致します。

高校生活三年間は、勉強や部活、自治活動などで明け暮れ、その経験から学び得たものは、数多くあると思います。その中のクラスメイトとの横のつながりや、先輩後輩の縦のつながりは、私達に多くの出会いを体験させてくれました。

た。人との出会いは、友達の輪を大きくしていくだけではありません。「人のふり見て我がふりなおせ」のごとく、自分の反省点を見詰めなおすこともできます。そして、多勢の人の考えを聞くことにより、自分の考えに深みが出ることもなると思います。

私事で恐縮ですが、自治活動との出会いは、私が一大躍進した最大の理由だと思います。身を持って一人の人間の力の弱さを知り、また、いろいろな考えを持った人間が協調することにより、一つの大きな壁を乗り越え、躍進することの素晴らしさを感じることが出来ました。

目前に迫った二十一世紀に私達は、日本を背負っていく世代になります。しかし、どんな時代にも、校訓「自由と規律」に恥じないよう、また「日大三島」の名を汚さないよう、精一杯の努力をしていきますので、暖く見守ってください。よろしくお願い致します。

二十六期生クラス幹事

三の一 秋山健一
三の二 黒岩秀臣
三の三 内田進啓
三の四 福井武宏
三の五 藤澤紳司
三の六 川井健一

三の七 大澤由昌
三の八 七部清人
三の九 本田毅
三の十 星崎久方
三の十一 今村敦仁
三の十二 稲葉浩

三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
K	J	H	G	F	E	D	C	B	A										
鈴木	西村	大村	鎌野	久保	秋山	伊藤	秋庭	針生	住本										
美香	山幸	村涼	野由	田雅	山聖	藤が	しの	千香	福代										

〈体操部〉

- 全国高等学校総合体育大会
個人で望月徳彦が出場した。

〈剣道部〉

- 県高校新人大会
団体 優勝
- 県高校剣道選手権大会
団体 第3位（優秀選手に稲川裕哉が選ばれた）

〈陸上競技部〉

- 全国高等学校総合体育大会
800Mに、土屋伸二が出場した。

〈バレーボール部〉

- 国民体育大会秋季大会
石川文敏と秋山 央が県選抜のメンバーとして出場 ベスト8

〈卓球部〉

- 全国高等学校総合体育大会
山本秀之・山田亮二・高井典治がシングルス・ダブルスの個人戦に出場

〈スケート部〉

- 全国高等学校総合体育大会
県大会総合優勝（16連勝）
男子2000Mリレー 第1位
女子2000Mリレー 第1位
- 全国高校スケート競技選手権大会
女子2000Mリレー決勝10位（県新記録）
1000M決勝14位 古屋治代（県新記録）
- 国民体育大会冬季スケート競技会（全国）
男子2000Mリレー決勝 8位
女子2000Mリレー決勝 8位

〈水泳部〉

- 全国高等学校総合体育大会
自由形（200M・400M） 甲斐 貴信
蝶 泳（100M・200M） 伊藤 輝寛
平 泳（100M・200M） 石谷 朋彦
背 泳（100M・200M） 新庄 健吾
個人メドレー（200M・400M） 藤浦 賢知
平 泳（200M） 南岡 柴野
背 泳（100M・200M） 佐川由起子
個人メドレー（200M・400M） 羽根田和幸
800Mリレー（男子）、400Mリレー（男子・女子）、400Mメドレーリレー（男子・女子）に出場

- 全国総体県大会
学校対抗 男子優勝、女子第3位

- 全国総体東海大会
男子総合第2位
100M・200M平泳 第1位 石谷 朋彦
200M背泳 第1位 新庄 健吾
100M蝶泳 第1位 伊藤 輝寛
400M個人メドレー 第2位 羽根田和幸
200M背泳 第2位 佐川由起子

- 国民体育大会夏季大会
9名の選手が出場し、各種目で大いに活躍とくに石谷朋彦は、200M平泳で第5位に入賞した。

- 静岡県高校新人大会
学校対抗 男子総合第2位、女子総合第2位
200M・400M個人メドレー 第1位 羽根田和幸
200M平泳 第1位 石谷 朋彦
100M・200M背泳 第1位 佐川由起子

〈柔道部〉

- 全国高等学校総合体育大会
団体 ベスト16
個人 軽重量級 第3位 川口 喜靖
重量級 第2位 秋山 勝彦

- 国民体育大会秋季大会
秋山勝彦、川口喜靖が出場

- 県高校新人柔道大会
団体二部（一年生の部） 優勝

〈庭球部〉

- 全国高等学校総合体育大会
団体 2回戦で岡山代表の山陽女子に敗る。
森川栄子・里見幸子・小塚あゆみ・高遠和美
後藤輝子
- 国民体育大会秋季大会
団体 ベスト8、森川栄子・里見幸子が出場



活躍するスケート部・静岡新聞

— 文 化 部 —

〈写真部〉

○第9回全国野球フォトコンテスト

優秀学校賞

優秀賞（全国2位） 森 喜洋

入 選 鉄谷 直・飛名 俊・森 喜洋・芹沢 薫
山本 仁・松下嘉彦

○第7回よみうり写真大賞

佳 作 近藤康司

○第3回静岡県高校写真コンクール

優秀学校賞

教育長賞 近藤康司

奨励賞 山本 仁

〔第19回全国高校生ポスター・絵画・写真・映像コンクール〕

学校特別賞（放送・美術・写真）

銅賞 映像部門（放送） 小さな犠牲者たち

映像部門（放送） ヤングパワー

HERO、ヒーローになる時

美術部門 七部清人・平井聡明・林 和茂・杉村和子
竹内邦治・内田英樹・長田俊広・山田恭子
藤井裕貴子・青木健司・平松英一・児玉美香子
加藤 洋・山田雅子

写真部門 大島章男・芹沢 薫・山本 仁



放送部活動風景

〈放送部〉

○第23回全国高校放送コンクール全国大会

—「全国第一位」に輝く—

アナウンス・DJ部門 奈良まなみ

久保蘭子

朗読部門

天野美子

ドラマドキュメント部門 アイドル危機一髪

映像部門 犬たちの叫び

○第32回NHK杯全国高校放送コンテスト全国大会

アナウンス部門 久保蘭子

朗読部門 関本博子・針生千香

ラジオ番組自由部門 どうにもとまらない

研究発表部門 コンピュータとPCMによる
校内放送の充実

○第6回静岡県高校放送新人コンクール

アナウンス部門 久保田小百合

〈美術部〉

○覚醒剤シンナー乱用防止ポスターコンテスト

最優秀賞 竹内邦治

佳 作 佐野信二・渡辺正信

○第5回全国高校生美術作品コンクール

優秀賞 小泉賢司

入 選 古川善規・朝比奈三奈・植田桂子・児玉美香子
芝井亜紀子・花嶋真美

○第11回全国高校生デザインコンクール

入 選 佐藤智明・竹内邦治・日吉和美・石原由実

○高校野球ポスター原画コンクール

佳 作 加藤睦子

○全国高校生イラストコンテスト

入 選 鈴木英之・藤井裕貴子

第二十六期生

同窓会入会式

— 二月二十二日 —

秋山勝彦君に奨励金贈られる

さる二月二十二日、母校の八号館講堂において、第二十六期生の同窓会入会式が実施されました。会長・母校校長挨拶のあと、新入会員千四十二名を代表して、藤澤紳司君が入会の決意をのべました。また本年は、同窓会表彰規定に該当する者として、柔道部の秋山勝彦君に同窓会より奨励金十万円と賞状が授与されました。秋山君は、昭和六十年全国高等学校総

合体育大会、個人戦重量級において準優勝、また第七回全国高等学校柔道選手権大会において優秀選手に選ばれるなど、数多くの実績があります。進路も、日本大学経済学部に決定しています。なお、恒例となった記念講演は、日本大学文学部教授、古橋広之進先生による「記録への挑戦」でした。まさしく、新入会員の精神的活力となることと期待します。



第7回全国高等学校柔道選手権大会における秋山君

同窓生プロフィール

活躍する仲間

二期 山本 徹氏

氏は二期生。母校在学中は柔道部員。柔道部は二期生の時の創部ゆえ、OBの一番の古顔。日大理工学部出身。本人は「利口学部」と言う。「はめ字遊びの会」をおこなっている。高校

時代から話すことが食べることより好きで、いつの間にか色々な会での司会をつとめるようになる。もちろん、同窓会入会式においてもつとめている。「知恵の輪名人」としてテレビにも出る。本業は、沼津市の株式会社市川鉄工所社長。その他、沼津・三島の発展のために走り回っている。後輩の皆さん、街で見かけたら声をかけてください。

〔訃報〕

近藤盛二先生御逝去



昭和六十年十二月三日九時二十五分、母校教諭の近藤盛二先生が、胃癌のため、五十六歳で逝去されました。

近藤先生は、新潟県出身で、昭和三十七年日本大学理工学部建築学科を卒業されて後、東京にある片岡工務店に務められました。

そして、昭和三十八年四月、母校の工業科建築学科の先生として赴任されました。それ以来二十三年間教鞭を執られました。

先生の人柄は、あたたかさと厳しさを兼ね備え、常に生徒の一人一人について熱心に見つめておられました。数学科を担当しながら、保健衛生部主任、寧曲部の顧問として、生徒とともに歩きました。

先生のご逝去を悼み、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

〔訃報〕

伊奈恒一先生御逝去

昭和六十年十二月五日、もと母校の教頭であられた伊奈恒一先生が、八十三歳で逝去されました。

伊奈先生は、昭和三十三年、母校の開校と同時に赴任されました。それ以来、国語科教諭として、そして教頭として、母校の発展に大変な尽力をされました。

た。その偉大なる功績は、言うまでもなく母校の歴史に残るものです。また、先生の学業と人に対する厳しい教えとその思い出は、多くの同窓生の心に燃えていることと思います。

先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

両先生を偲んで

母校教諭

石川 渥之

昨年、師走に入ってから間もなくのこと、両先生の相次ぐご逝去に接しました。この大きな悲しみは何にもたとえようがありません。

昭和三十六年の春以来、私は工業科の一員として他の先生方と共に伊奈先生にお世話になりました。先生は校務主任（教頭）をしておいででしたが、職務について何も分らぬ私共に対し、懇切丁寧にご教示してくださいました。謹厳実直と申しましようか、仕事の上では厳しくあられましたが、そのお人柄は真にご柔和であり、よくお声をかけていただきました。私共の今日あるは、ほんとうに先生のお蔭であつたと思っております。

今は、心よりご冥福をお祈りするばかりでございます。

近藤先生とは昭和三十八年からのおつきあいでしたが、同じ建築科の一員として、また人生の先輩として公私にわたりお世話になりました。特に木構造のことなど、先生の実務経験を通じてのご指導は、私共に及ぶべきものではありませんでした。これからもさらに教えを乞いたいと願っていましたのに、ほんとうに残念でなりません。どうか安らかに眠りください。

第八期（昭和四十二年度卒業）

女子部同窓会を開催

お節料理もまだ減らぬ六十一一年一月四日（土）、午後一時より、第八期女子部同窓会を三島雅叙園ホテルにて開催致しました。会には、百五十名の卒業生に対し五十五名という多数の出席者、また、学校側より三年時の担任である田上清美先生・勝村明夫先生・藤沢全先生（現在短大教授）、そして二年時の担任をして下さった市川紀子先生の四名がご出席して下さい、三年前の男女合同々窓会に比べ、その出席率の高さにあらためて喜びを感じました。会はカラオケやゲーム、あるいは思い出の歌を合唱したり、各自の近況を報告したり、時間の経つのも忘れ、大いに語り、笑い、久しぶりに青春

時代に返る事ができました。その後全員での記念撮影、そして二年後の再会を約束し、十六時三十分、盛況の内に閉会となりました。

〔幹事〕

A組 入江 育代・高山恵美子
B組 下里 文子
C組 杉山千香子・山本志保美



仲間入り

大切な分岐点



私達、六十年卒業生は第二十六期生として、同窓会に入会させて頂くことになりました。

思い起こせば、同窓会の存在が遙か遠くのものに見えていた先日の現実、栄えある日大三島高校の同窓会のメンバーの一員に加えて頂く栄誉と誇りを、この身にひしと痛感している次第です。私達はまだまだ右も左も解らない「ひよこ」です。もしも、私達が岐

辻 美里（二十六期生）

路を乱す時や判断に迷う折がありましたならば、適切な御指導と温かい助言を下さいますよう心よりお願い申し上げます。

高校卒業と言う人生の節目は、人間一個の大切な分岐点であるように思えます。ある者は実社会へ、そしてある者は進学と、それぞれ道は今までより以上多難であることと思いますが、私達は、日大三島高校での生活の礎と確かな名誉を携えて、先輩の皆様の後を一路邁進したいと存じます。

どうか先輩の皆様方、よろしくお祈り致します。

支部だより

沼津支部

支部活動へ参加を

副幹事長

山田 央一（六期）

沼津支部も支部総会を重ね、早くも四回目（途中開催できなかった年もありました）を迎えました。

ついこの間、前高木支部長と、一年一年の積み重ねをつらぬき、日大三島高校同窓会を、沼津支部の手で盛り上げて行かなくてはならない、と談議したものです。それが何よりもの後輩へのつとめだと考えます。

現在二百余名の支部登録者を、本年は十名も二十名も増やし、さらに五回目の総会に向けて頑張っていきたいと思えます。また今年

は、沼津支部事務局、瀧口文昭市議会議員再選にも向け、現今井支部長他役員一同、第四回総会を盛り上げるべく新たな計画をしています。

母校をささえる同窓会活動は、何といっても皆様の参加なくしては成功しません。卒業生は同窓会のメンバーです。卒業後はビジターではありません。是非とも参加して下さい。

記

第四回 沼津支部総会

日時 六十一年

三月八日（土）（十八時）

場所 ホテル沼津キャッスル

会費 男……三千五百円

女……三千円

田方支部

大仁分科会を開く

分科会長

牧野 英一（二期）

大仁分科会は、五十九年五月に発足しました。そして第二回目の集いを、六十年四月二十五日、大仁

の洋らんパークにおいて、前回同様、三期の山田守宏君等の尽力で開くことができました。母校放送部製作のビデオを見たりしながら、大仁に生活する同窓が、楽しく意義あるひと時を過ごしたのでした。

ここで思ったことは、地域に生きる同窓のありがたさということ。永きつき合いの中において、喜びも苦難もともに味わえる仲間づくりを、皆様と一緒にくり上げていきたいと思っております。どうぞよろしく願います。

各 支 部 長 一 覧

支部名	氏 名	住 所	T E L
三 島	久保田 光	駿東郡清水町柿田九	(〇五五) 七一一一九二二
田 方	野 田 昭二朗	田方郡修善寺町柏久保六三三三四	(〇五五) 七二一〇二七七
沼 津	今井 信之	沼津市市場町一〇一一	(〇五五) 三一一七八七八
御殿場	武藤 康徳	御殿場市新橋一九七六	(〇五五) 二二二二八四
裾野	勝 又 国佳	裾野市深良一五五一	(〇五五九) 七一一三九二
富 士	西村 雅幸	富士市松岡一三〇四一七	(〇五四) 六一一五一七五
富士宮	秋山 一雅	富士宮市浅間町四一一五	(〇五四) 二六二三八四八
清 水	久保田 容弘	庵原郡富士川町岩淵七八一三	(〇五四) 八一〇八八八
静 岡	松下 悟	島田市横井四一一一一三	(〇五四) 四五二八三一五
熱 海	谷口 俊二	熱海市上多賀九二〇一一	(〇五七) 六八一四〇二二
小田原	川口 功一	小田原市東町四一〇一一	(〇四六) 三四一〇四六四

熱海支部

支部長

谷口 俊二（二期）

一月十一日、長岡の千歳荘で、「桜樹会」（母校出身の熱海市役所

昭和六十年 事業報告

一、総会

四月二十一日

於「グランドホテル」

- 一、会長挨拶
- 一、学校長挨拶
- 一、議事

- (1) 昭和五十九年度事業報告
- (2) 昭和五十九年度決算報告
- (3) 昭和六十年事業計画
- (4) 昭和六十年予算案
- (5) その他

一、懇親会

二、幹事会

一、三月二十七日 於「樺」

二、四月十八日 於「樺」

三、七月五日 於「樺」

四、一月二十五日 於「不二美」

五、その他

〇入会式の件

〇奨励金の件

〇会報発行の件

〇総会の件

三、事業

一、納涼船 七月二十一日

沼津港より

二、二月二十二日

於 母校八号館



総 会 風 景

同窓会規約

第一章 総則

第一条 本会は日本大学三島高等学校同窓会と称する。

第二条 本会の事務所は、これを日本大学三島高等学校内に置く。

第三条 本会会員は、日本大学三島高等学校の卒業生をもって正会員とし、現教職員および元教職員をもって特別会員とする。

第四条 本会は、母校建学の精神にのっとり会員相互の親睦と融和を図り、母校の発展興隆に寄与することをもって目的とする。

第五条 本会は、前条の達成のために左の事業を行なう。

一、会員相互の親睦と融和をはかるための各種行事

二、母校の発展興隆に関する各種行事への協力・参加

三、その他、目的達成のために必要な諸行事

第二章 機関

第六条 本会は、事業遂行のため左記の機関を置く。

一、総会 二、幹事会 三、支部会 四、事務局

五、編集委員会

第七節 総会

第七条 総会は本会運営の最高決議機関である。総会の議事は出席会員の過半数をもってこれを決する。

但し、必要により各支部を代表する支部長をもって、総会の決議にかえることができる。

総会は本会運営についての立案実行の一切の事務を幹事会に委嘱する。

第八条 総会は四月一日より翌年三月三十一日までの年度一回、会長がこれを召集し、幹事会、会計監査の所管事項の報告をうける。但し、緊急を要する事項に關し、会長が認めた時、又は会員多数の要求があつた場合、会長は臨時に召集しななければならない。

第九節 幹事会

第十条 幹事会の運営機関として左記の事項を立案し総会の承認を経たのちこれを実行する。

一、予算・決算に関する事。

二、事業計画に関する事。

三、会則の改廃に関する事。

四、その他、第五条によつて必要と認めた事項。

幹事会の召集は幹事長が行ない、年三回以上、原則として過半数の幹事出席のもとに開催する。また、幹事長は幹事の三分の一以上の要求があつた場合は、臨時に幹事会を召集しななければならない。

第十二条 幹事会には幹事長一名、副幹事長二名、庶務・会計二名、その他、必要とする役職を置き幹事会の互選により選出する。

第十三条 幹事会に常任幹事会を設ける。常任幹事会は幹事会の役職員

ならびに常任幹事によつて構成され、必要により幹事会にかえることができる。

第十四条 幹事会は本会運営上、必要と認めた場合に臨時に特別の機関を設けることができる。

第十五条 本会は各地区に支部会を設け、本会の目的達成の推進を図る。

第十六条 支部の運営については、本規約に準じ細則は各支部によるものとする。

第四節 事務局

第十七条 事務局は幹事会のもとで本会運営を円滑ならしめるよう務める。

第十八条 事務局は幹事会より委嘱された者をもって構成する。

第五節 編集委員会

第十九条 編集委員会は幹事会に所屬し、原則として年度一回の会報発行、その他、本会運営上、必要な広報の任にあたる。

第二十条 編集委員会は幹事会より委嘱された者をもって構成する。

第三章 役員

第二十一条 本会は左記の役員を置く。

会長一名 副会長二名 幹事長一名 副幹事長二名 幹事、常任幹事、会計監査二名

第二十二条 会長、副会長は、幹事会の推薦により、総会の決議をもつて選出する。会長は本会を統理し、副会長はこれを補佐する。

第二十三条 幹事長は幹事会を代表し、本会運営の責任を負う。

第二十四条 副幹事長は幹事会を補佐する。

第二十五条 幹事は各卒業学年の代表者が当たり、学年の意見を代弁し併せて会務を分担する。

第二十六条 常任幹事は各地区支部会の代表者が当たり、地区の意見を代弁し併せて会務を分担する。

第二十七条 会計監査は総会において選出され、経理を監査し、総会にその旨を報告し承認をうける。

第二十八条 各役員は総会の承認を経て、その任につき職務にあたる。任期は二年とする。但し、重任はさまたげない。

第四章 会計

第二十九条 本会の経費は会費ならびに寄附をもつてこれに当てる。

第三十条 正会員は卒業時に終身会費を日本大学三島高等学校会計課に納入する。

第三十一条 本会の会計年度は四月一日より翌年三月三十一日までとする。

第五章 表彰・その他

第三十二条 本会に貢献したものは会長が幹事会の議により、総会の承認を得、これを表彰することができる。

第三十三条 会員として名誉を毀損する行為があつたときは、会長が幹事会の議により総会の承認をえ、これを除名することができる。

第三十四条 顧問は会長がこれを委嘱し、本会運営上の諮問に応える。

第六章 附則

第三十五条 規約の改廃については幹事会の議により、総会の承認をえて行なう。

第三十六条 制度施行 昭和三十六年三月十一日

改正施行 昭和四十七年四月一日

改正施行 昭和五十三年四月三十日

表彰規定

前文 本規定は日本大学三島高等学校同窓会規約第五章三十二条に基き、その適用細則を定めたものである。

第一条 本会々員にして、社会的に顕著な業績をあげた者に対し、所定の手続きを経て表彰することができ。

第二条 日本大学三島高等学校に在籍する者で、将来、国家社会に貢献し、母校及び本会の発展に寄与できる有為な人物及び団体に對し、奨学金又は奨励金を支給することができる。

(一) 奨学金の支給をうける者は、最終学年に在籍し、在籍期間中、学業成績・人物・自治活動・健康に優れ有為な人物として学校長より推薦された者とする。ただし奨学金は一名を原則とする。

(二) 奨励金の支給をうける団体は、生徒会所属の団体で、顕著な業績をあげ更に一層の充実・発展が期待されるものとして、学校長より推薦された団体とする。ただし奨励金は一団体を原則とする。

第三条 第一条、第二条の表彰式は、年度末とし、総会または入会式に行う。

付 本規定は昭和五十二年二月十二日より施行する。